エストラジオール-17β投与によるマツカワ種苗の雌化

森　立成，川真田憲治，水野伸也
足立伸次，山内晧平

マツカワ人工種苗に，エストラジオール-17β（E2）を投与したときの，投与開始時期と投与濃度について検討した。全長30㎜投与では，10および1μg／g餌料量で100％の雌が得られた。全長56㎜投与では，10μg／g餌料量で95.2％の雌が得られたが，1および0.1μg／g餌料量では4.7，8.3％と雌の比率は低かった。また，生殖腺の組織像から，全長30㎜では未分化であるが，全長55㎜で生殖腺の2型がみられた。より低濃度で高率の雌を得るためには全長30㎜から1μg／g餌料量の濃度で，30日間程度の連続投与が適当であると考えられた。

A244　北水試研報46　1－6　1995

南茅部町豊崎の掘削溝におけるマナマコ稚仔の成長推定について

千川　裕，高橋和寛，今野幸広，宮川　透

1993年10月と1994年1月および10月に，南茅部町豊崎の平磯に掘削された溝とその周辺に生息するマナマコの分布と体重組成を調べた。平磯の沖側に比べて，溝内で個体数が多い傾向があり，特に体重30g以下の小型個体が多かった。10月の体重組成は10g付近にモードがあり，1月の組成に比べると40～60gの個体の割合が多かった。1994年10月19日には当歳と思われる体重0.1gおよび0.4gの個体が採集された。これまで報告されているマナマコの成長を参考にし，10gのモードを構成する個体は満1年群が，40～60gの個体は満2年群が主体であると推察した。

A245　北水試研報46　7－14　1995

モロトゲアカエビ幼生の成長および生残率と飼育水温との関係（短報）

水島敏博

モロトゲアカエビのふ出幼生を6℃から18℃まで，3℃間隔の5段階に設定した水温別の飼育試験より成長と生残率を比較した。1齢から5齢に達するまでの所要日数は低温区ほど長期間を要したが，生残率は6～9℃の低温区の方が良好であった。設定水温の中では好適と思われる9℃での5齢までの所要日数は43日前後であり，生残率は70％台であった。

A246　北水試研報46　15－18　1995

交尾栓保有率から推定した道東太平洋におけるケガニ *Erimacrus isenbeckii* (Brandt) 雌の性的成熟サイズ（短報）

佐々木　潤

ケガニの雌個体群の交尾栓保有率から性的成熟サイズを推定した。交尾栓のある最小サイズの個体は，甲長33.8㎜，最大サイズの個体は，甲長92.0㎜であった。50％成熟サイズは甲長60～65㎜と推定された。また，大型個体で交尾栓保有率の減少がみられたが，このことからこれらの個体と交尾可能な雄が少ないことが示唆された。さらに交尾栓の保有率は，*Cancer pagurus* の例と比較してかなり低い値にとどまっていることから雄専獲の漁業による影響も考えられ，今後，資源学的観点からの研究が必要である。

A247　北水試研報46　19－21　1995